

さとにきたら ええやん



監督・撮影:重江良樹 音楽:SHINGO★西成 プロデューサー・構成:大澤一生(「南の人」「フリーダ・カーロの遺品―石内都、織るように」) 編集:辻井潔(「南の人」「イラク チグリスに浮かぶ平和」)
音響構成:渡辺丈彦(「ルンタ」「舞の南 レビー-小体型認知症」) 制作協力:神吉良輔(ふとっちょの木)、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力:ビジュアルアーツ専門学校大阪 特別協力:小谷忠典
助成:文文化庁文化芸術振興費補助金 企画:ガーラフィルム 宣伝・配給協力:ウッキー・プロダクション 製作・配給:ノンデライコ 2015 | 日本 | 100分 | カラー | 16:9 | 5.1ch | DCP

日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集い場「こどもの里」
人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑いあふれるドキュメンタリー!



さとにきたら
ええやん

いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追いました。



わたしはあんたの味方やで! 現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたたく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の「取り組み」が、これからを歩む私たちに問いかけるものとは――?

「こどもの里」とは?

1977年設立の「子どもの広場」を前身とし1980年に現在の場所で「こどもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

こどもたちの 遊びと学び 生活の場です

誰でも利用できます。
こどもたちの遊びの場です。
お母さん お父さんの休息の場です。
学習の場です。
生活相談 何でも受け付けます。
教育相談 何でもできます。
いつでも宿泊できます。
緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
親の暴力にあつたら…
家がいやになったら…
親子で泊まるどころがなかったら…
土・祝もあいてます
利用料はいりません



さとにきたら ええやん

監督・撮影：重江良樹 音楽：SHINGO★西成 プロデューサー・構成：大澤一生 編集：辻井源 音響構成：渡辺丈彦
制作協力：神吉良輔（ふとっちょの木）、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力：ビジュアルアーツ専門学校大阪
特別協力：小谷忠典 助成：余文化庁文化芸術振興費補助金 企画：ガーラフィルム 宣伝・配給協力：ウッキー・プロダクション
製作・配給：ノンデラライコ 2015/日本/100分/カラー/16:9/5.1ch/DCP

www.sato-eeyan.com

fb.com/satoeeyan777 @sato_eeyann

～2018年度堺市と関西大学との地域連携事業～

【日時】 2019（平成31）年1月20日（日） 13時30分～16時（開場 13時）
【場所】 堺市総合福祉会館（南海高野線堺東駅徒歩5分 堺郵便局南） 【参加費】 無料 [申込み不要・直接会場へ]
【内容】 ①映画上映（13:30～15:10） ②荘保共子さん講演 ③さかい子ども食堂ネットワークの取り組み
【主催】 関西大学・堺市・堺市社会福祉協議会合同主催（問合せ：関西大学堺キャンパス事務局 地域連携担当 TEL：072-229-5024）